

創建当初の姿を求めて

今から105年前、佐原上仲町の大通り沿いに、銅板葺のドームを配した煉瓦造りのモダンな建物が姿を見せました。今は佐原三菱館として親しまれているその建物は、創建当初は清水満之助商店(現：清水建設)が設計、施工した川崎銀行の佐原支店でした。

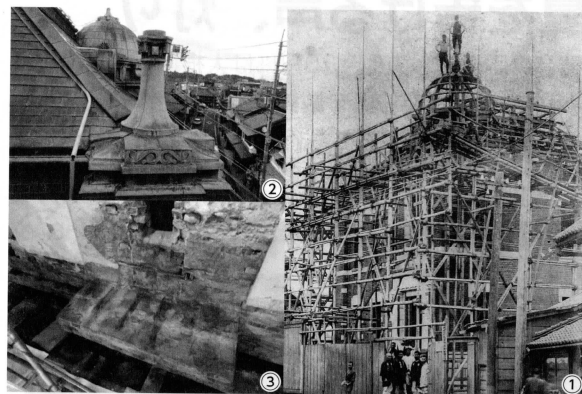
川崎銀行は、水戸の川崎八右衛門が明治13年に創立した銀行で、佐原には当初から営業所が置かれ、明治31年には支店に昇格しています。

現在は市の所有となった佐原支店は、東日本大震災以降8年の間、内部の公開を控えています。その間、保存修理工事のために耐震診断、基本設計、実施設計を行ってきました。実施設計には、香取市で初めて、技術支援者として施工者が早期に関わるECI方式を採用しました。技術支援の過程で行われたさまざまな調査では、煉瓦で積まれた暖炉の基礎や煙突の穴、設計図とは異なる螺旋階段の基礎などが確認されました。今後、それらの成果を基に、創建当初の姿へと復原していきます。

耐震補強工事では、45cmほどの厚さの煉瓦壁内に、直径5cmの穴を天井から床付近まで垂直に開けていきます。その中に直径1.7cmの鋼棒を差し込み、上下で固める特殊な工法を採用しています。それにより、内外部の意匠・景観を損なうことなく、耐震補強が行えるのです。

7月からは本格的な保存修理工事が始まりました。工事期間中は覆い屋に隠れるため、その姿を見ることはできませんが、完成の暁には、川崎八右衛門がこだわり、清水満之助商店が手掛けた、川崎銀行佐原支店の姿をお見せすることができるでしょう。

固 生涯学習課 ☎(50)1224



① 建設中の川崎銀行佐原支店 ② 銅板の飾り ③ 暖炉の基礎と煙突に通じる穴